

厚生福祉

時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
購読料金 税抜月額4,100円
本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
©時事通信社2016
◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
kousei-dokusha@jiji.com

目次

特集	現代版湯治と予防医療 ①えのすば	2
ニュース	厚生年金の対象拡大	7
中央省庁ニュース		8
	高齢者の起業支援を 働き手確保、消費増も/待機児童対策で働き方改革を 自治体首長が塩崎厚労相に/緩和ケア充実へ支援を がん対策で厚労省に勧告 ほか	
進言(長崎県)		9
ニュース	14年度国民医療費、40・8兆円	10
海外トピックス		11
調査・統計のページ		12
地域を支える(兵庫県)		13
ニュース	「夫婦控除」先送りも 政府・与党に慎重論	14
私たちの工夫		15
解説	総合事業へ移行見送り 軽度要介護者の生活援助	16
短信		17
ニュースフラッシュ		18
	ポイントためて介護予防/65歳以上に割安な地下鉄定期券/サービスロボットの安全規格取得支援/ドクターヘリ、18年にも導入/大阪・神戸港に新ごみ処分場/独自の働き方改革会議設置 ほか	
さくいん、主要日誌	9月	21、22

老いをあきらめて生きる

秋田県男鹿半島真山地区に伝承されている「なまはげ」を見た。四股を踏んで、うなり声を出しながら古民家に入ってくる。小さな子どもたちが一斉に泣き出す。「なまはげ」たちは「悪い子はいねが。なまげものはいねが」と叫びながら座敷に座っている観客の間を練り歩く。

家の主が捕まった。「おめえとこの嫁この光子は隣村さから嫁いで来たときは、器量良し、働きの者だと評判だったが、近頃は朝起きるのは遅いし、朝飯の仕度もしなくなったそうだな。おまけに夕方になるとソワソワしてカラオケ通いをするよ、この『なまはげ台帳』に書いてあるぞ。説教すつから光子を出せ」と家の中を探し回る。

医療法人誠志会
砥部病院院長・中城 敏



隣に座っている妻は、この光景を楽しそうにニコニコして見ている。私は心の中で「ここにも愛媛の光子がいますよ」と叫んでいた。

子どもたちが巣立った後、妻は朝食を作らなくなった。おまけに家に帰るとテレビからは韓国語しか聞こえない。妻が韓流ドラマにはまっているのだ。「一緒に見ようか」と声をかけると「はい、おやすみなさい」とテレビから目を離さずに言う。私は夜9時に寝ることを余儀なくされ、家庭生活のほとんどを「あきらめる」羽目になった。

老化現象で生じる心身の不都合には、「あきらめる」ことが肝要となる。すべての症状を病気と思ひ込み、病院通いをする、抗不安薬等を処方

されて、転倒骨折、一生寝たきりになりかねない。「あきらめる」の本義は、ものごとを正しく見極め、明らかにし、それをあるがままの姿で受け入れるという、積極的な生き方にある。

老いていく自分を明らかに見て(明らかに)、常に変化していく自然の流れとして、素直に受け入れることができれば、心に余裕ができる。老いてなおより良く生きようとする意欲が湧いてくる。吉田兼好も鴨長明もたどってきた道なのである。

妻を明らかにしてみる。懸命に育てた息子3人が巣立った喪失感から「空の巣症候群」に陥っている。それ故、男前で息子の年頃の韓流スターに夜更けまでのめり込む。朝3時に起きる私のために朝食を作れと言う方が無理な話である。ぽつかりと空いた妻の心を慰めるため、私は子どもたちの代わりに、思いつきりダダをこねて生きることにした。